

令和4年度

## 松戸市地域環境調査報告書



キビタキ  
村松調査員撮影



モズ  
吉田調査員撮影

松戸市 環境部 環境政策課

## はじめに

野鳥は自然のバロメーターともよばれ、自然の中で、他の生き物とも様々な関わりをもって生活している生き物のひとつです。人間もまたこの自然のしくみに深く関係し、自然の恵みを受けながら生活をしています。

松戸市では「松戸市環境基本計画」（令和4年3月策定）のなかで『めざすまちの将来像』として、「①地球温暖化対策の推進、②資源循環型社会の構築、③自然環境の保全と生き物との共生、④安全・安心で快適な生活環境の保全、⑤環境学習と環境活動の推進」を掲げています。

多くの野鳥を育めるような環境を守っていくことは、私たちにとって『人と環境にやさしい持続可能なまち まつど』（松戸市環境基本計画に掲げた「めざすまちの将来像」）となるための基本目標を達成する上で必要なことです。

松戸市では、平成11年度から「地域の人達に住まい周辺の環境状況を自ら調査する機会と、地域住民が同じ目標をもって地域独自の環境作りを始めるきっかけを提供する」ための『生きもの調査』事業を開始しました。

『生きもの調査』では野鳥のほかに、蝶やトンボ、セミ、バッタなどの生息状況も調査の対象としました。

平成17年度からは、調査内容の一部を見直し、対象を野鳥に絞った『地域環境調査』を実施し、平成23年度から環境度の指標を変更しました。

また、平成27年度からは、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年法律第78号）第2条第1項に定める特定外来生物（以下「特定外来生物」という。）の他、調査員が興味を持った野生の生きもの（以下「その他の生きもの」という。）についても報告いただく体制としました。

『地域環境調査』事業は、調査員による調査結果を市のホームページで公表することで、市民の皆さまに身近な環境について知っていただき、環境や自然について考えるきっかけをつくることを主な目的としています。

## 目次

1・	調査目的	1
2・	調査範囲	1
3・	調査の方法等	4
	(1) 調査期間	4
	(2) 調査方法	4
	(3) 評価方法	5
4・	調査結果 前期（4月～9月）	8
	各地区の点数	8
	近年の比較	9
	得点化されている野鳥の目撃された地区	11
5・	調査結果 年間（令和4年度）	16
	各地区の目撃種類数	16
	月毎の目撃種類数	17
	近年の比較	18
	野鳥毎の目撃された地区	20
6・	参考資料	26
	○令和4年度における活動の実績	26
	○土地利用状況	27
	○特定外来生物	28
	○その他の生きもの	33
	○コラム	35
	○地域環境調査員からの短信	39
	おわりに	43

## 1・ 調査目的

松戸市で実施している地域環境調査には次のような目的があります。

- (1) 地域の野鳥を地域の人が自ら観察・調査することで、地域の環境についての関心を高めること。
- (2) 地域で観察された野鳥の変化を経年的に捉えることで、地域環境全般の総合的な評価を得ること。
- (3) (1) および (2) により、地域環境の問題点を浮き彫りにし、地域独自の自発的な取り組みの活力を高めること。
- (4) 松戸市環境基本計画の見直し等の総合指標として活用し、環境計画推の実効性を向上すること。

## 2・ 調査範囲

松戸市全域を図-1のように1km四方の65調査区に分け、それぞれの地区に地域環境調査員(市民ボランティア)を配置し、担当調査区域内の環境を調査します。

図-1 調査区域図

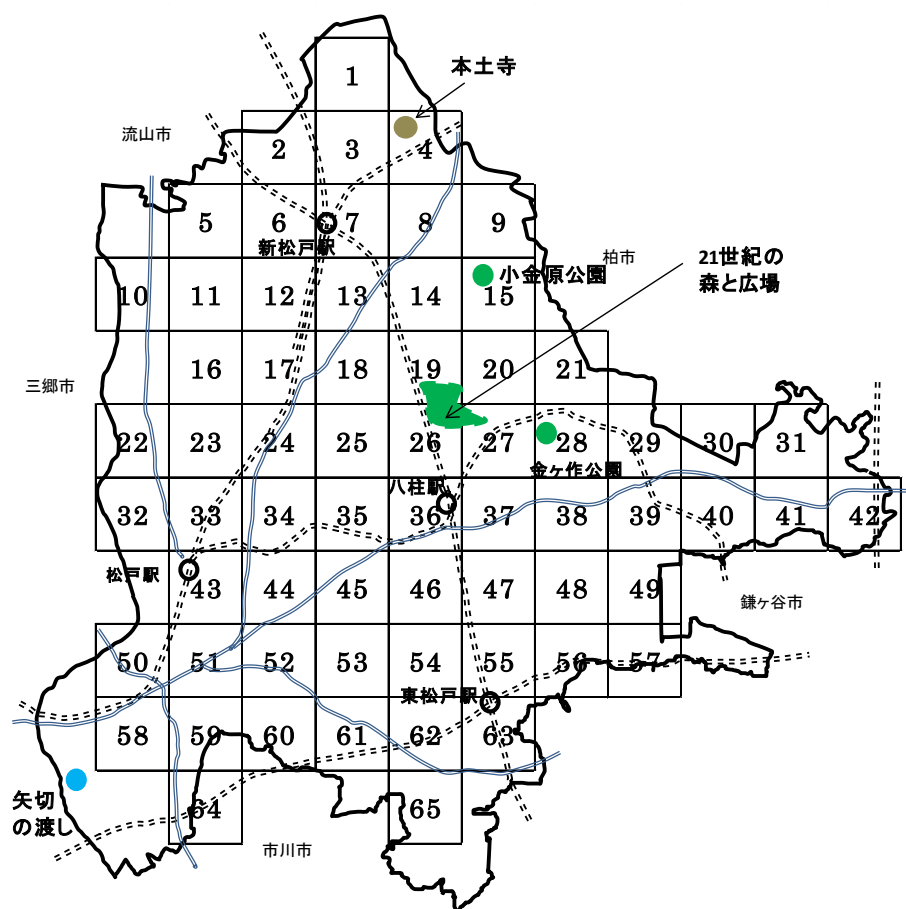


表-1 令和4年度地域環調査（各地区の主な施設・場所）

地区 No	地区名	調査場所
1	幸田地区	幸田鉄塔通り、富士川・坂川沿い、幸田第1・2・3公園、浅間公園 等
2	横須賀地区	横須賀中央公園、坂川付近、大勝院、大倉記念病院、小金高校周辺 等
3	大金平地区	東漸寺、鹿嶋神社、本土寺、中金杉、広徳寺、大谷口歴史公園、大倉記念病院 等
4	東平賀地区	根木内城跡公園、富士川周辺、本土寺参道、北小金駅北口商店街、東平賀公園 等
5	新松戸地区	新松戸西小、南小、西パーク街、サンライト街区、あおぎり公園、もくれん公園、旭町田畑、稲荷大橋、坂川放水路左岸堤 等
6	新松戸地区	2番街、8番街、新松戸中央公園、けやき通り、坂川 等
7	幸谷地区	大谷口新橋、下山公園、溜脇公園、関さんの森N02、東漸寺、山王公園、こどもの森、幸谷斜面林、新松戸第1公園、水琴橋 等
8	久保平賀地区	清ヶ丘小金公園、ユウカリ交通公園 等
9	根木内地区	根木内歴史公園及び広池学園との市境 等
10	主水新田地区	まこも池、主水新田地区、江戸川河川敷、主水池、稲荷神社、栄町・旭町田んぼ付近 等
11	旭町地区	はずだ公園、けやき公園 等
12	西馬橋地区	新坂川、相川公園、新松戸南公園、中道公園、西馬橋1～3丁目、広田公園 等
13	幸谷地区	二三ヶ丘公園、南谷公園 等
14	八ヶ崎地区	金谷寺周辺、八ヶ崎第二小学校周辺、すずめ公園 等
15	小金原地区	小金原7丁目 等
16	栄町地区	下通橋、香取神社、吉岡梨園、長津道橋(坂川)、旭小、馬橋高手前六間川、日本大学周辺 等
17	西馬橋地区	全域(ロード) 等
18	馬橋地区	中和倉公園、馬橋第二公園 等
19	八ヶ崎地区	21世紀の森と広場 等
20	栗ヶ沢地区	はくちょう公園、栗ヶ沢中、ひばり公園、貝の花小、高木小学校、千葉西病院 等
21	金ヶ作地区	金ヶ作自然公園 等

地区 No	地区名	調査場所
22	古ヶ崎地区	江戸川河川敷
23	古ヶ崎地区	古ヶ崎第二公園、栄町第二公園 等
24	北松戸地区	中台公園 等
25	上本郷地区	松戸運動公園、県立松戸高校周辺 等
26	千駄堀地区	21世紀の森と広場、香取神社周辺、松戸中央霊園 周辺 等
27	常盤平地区	21世紀の森と広場、常盤平団地 等
28	常盤平地区	金ヶ作公園、ふよう公園 等
29	五香六実地区	金ヶ作周辺 等
30	六高台地区	北丘第二公園 等
31	高柳新田地区	六高台3～6丁目、六実中央公園、グリーンベルト (桜並木)、六実中学校 等
32	古ヶ崎地区	江戸川河川敷、樋野口 等
33	根本地区	中町児童公園、松戸市役所 等
34	南花島地区	南花島公園、上本郷駅 等
35	松戸新田地区	稔台駅、松戸運動公園 等
36	日暮地区	千駄堀、駒形公園周辺 等
37	常盤平地区	牧の原付近 等
38	初富飛地地区	牧の原団地公園、調整池周辺、金比羅神社、しら かし公園、けやき通り 等
39	松飛台地区	松飛台小学校周辺 等
40	五香六実地区	元山駅、ふれあい公園 等
41	六実地区	スポーツ広場周辺、六実1～3丁目 等
42	六実地区	六実3～5丁目 等
43	松戸地区	坂川周辺、松戸中央公園、松戸神社 等
44	胡録台地区	松ヶ丘小学校周辺、神明神社 等
45	稔台地区	稔台工業団地、和名ヶ谷地区 等
46	稔台地区	河原塚小周辺
47	河原塚地区	八柱霊園
48	松飛台地区	八柱霊園
49	松飛台地区	松戸南郵便局 等
50	小山地区	江戸川河川敷、南部小学校、坂川、川端道他、角 町周辺等
51	三矢小台地区	戸定が丘歴史公園、千葉大園芸学部 等

地区 No	地区名	調査場所
52	二十世紀が丘地区	和名ヶ谷中、和名ヶ谷クリーンセンター周辺 等
53	和名ヶ谷地区	和名ヶ谷、国分川周辺等
54	紙敷地区	河原塚中学校周辺、国分川周辺、春日神社、春木川 等
55	紙敷地区	東松戸駅周辺、八柱霊園周辺、東松戸駅周辺 等
56	松飛台地区	松飛台駅、関台公園 他
57	松飛台地区	泉ヶ丘1号緑地
58	中矢切地区	野菊の墓、下矢切264周辺 等
59	三矢小台地区	三矢小台公園、寺沢公園、鴻之台公園、神明公園、矢切神社 等
60	二十世紀が丘地区	大橋公園、胡録神社 等
61	秋山地区	松戸向陽高校周辺 等
62	秋山地区	もえぎの風公園周辺 等
63	高塚新田地区	高塚十字路 等
64	矢切地区	矢切地区、栗山浄水場、立身台公園 等
65	高塚新田地区	東部市民センター

### 3・ 調査の方法等

#### (1) 調査期間

各年度の4月～3月末までの1年間を調査期間としています。

そのうち、春～夏の期間の4月～9月を“前期”、秋～冬の期間の10月～3月を“後期”とし、半年ごとに分けています。

表-2 令和4年度の調査期間

前期	令和4年4月～令和4年9月（春～夏）
後期	令和4年10月～令和5年3月（秋～冬）

#### (2) 調査方法

調査員は、各自で選んだ担当調査区内で比較的環境度の高いと思われる（公園や神社、田畑、河川敷等）場所において、可能な回数の野鳥観察を実施します。野鳥の種類が分かったものについて○を調査票に記入し、半年ごとに事務局（市）へ報告します。

### (3) 評価方法

評価にあたっては、公益財団法人日本鳥類保護連盟（以下：公財）日本鳥類保護連盟）が作成した「環境ものさし」を用いて行います。

この「環境ものさし」では、どのような環境にも生息できる鳥から豊かな自然環境にしか生息できない鳥まで、指標となるもの 50 種類選出されています。ドバトのような身近にいる鳥には 1 点、クマタカのような森林地帯にいるような鳥には 10 点など、それぞれに 1 点～10 点（表-3）の点数がつけられています。

この評価方法に基づき、観察された野鳥の合計点を算出することによって、その地域の環境度を知ることができます。

なお、「環境ものさし」では、鳥の繁殖期間にあたる春～夏（4 月～9 月）の期間が点数の対象となっています。

#### 環境度の算出対象期間：春～夏 4 月～9 月

表-3 「環境ものさし」における野鳥の点数

10 点	クマタカ	7 点	アカゲラ	5 点	ヒバリ
9 点	アカショウビン	7 点	オオアカゲラ	4 点	コゲラ
9 点	サシバ	7 点	オオタカ	4 点	メジロ
	フクロウ	7 点	キビタキ	4 点	キジ
8 点	アオバズク	7 点	センダイムシクイ	4 点	セグロセキレイ
8 点	アオバト	6 点	ホトトギス	3 点	カワラヒワ
	ツツドリ	6 点	ヤマガラ	3 点	キジバト
8 点	クロツグミ		エナガ	3 点	シジュウカラ
8 点	コガラ	5 点	イカル	3 点	ツバメ
8 点	ゴジュウカラ		ウグイス	3 点	コシアカツバメ
8 点	サンコウチョウ	5 点	ホオジロ	3 点	ヒヨドリ
8 点	サンショウクイ	5 点	カッコウ	3 点	ムクドリ
8 点	ミソサザイ	5 点	モズ	2 点	スズメ
8 点	オオルリ	5 点	カワセミ	2 点	ハクセキレイ
8 点	ヤマドリ	5 点	キセキレイ	2 点	ハシボソガラス
7 点	アオゲラ	5 点	セッカ	1 点	ドバト
			オオヨシキリ	1 点	ハシブトガラス



図-2 野鳥の点数 (出典：公財) 日本鳥類保護連盟)



例えば、スズメを観察すれば2点になりますが、1羽でも多数観察しても同じ2点になります。また、同じ4点の枠にいるコゲラ若しくはメジロの場合には、どちらか又は両方観察しても、同じ4点のみになります。

これらの点数を合計し、点数により地域の環境度を評価します。評価の基準は点数により5段階に分かれ、環境の状態は表-4のようになります。

表-4 環境度・点数と環境の状態

合計点と環境	環境の状態
A : 121 点以上	<p>Bまでの鳥に加え、ツツドリ、オオルリ、クロツグミのような森林性の鳥が見られるようでしたら、そこは里山から奥山化へと進んだ山地的な環境と言えるでしょう。</p> <p>また、森林生態系の頂点に立つクマタカや、森に棲むカワセミの仲間であるアカショウビンが見られれば、そこは私たちの生活圏からかなり離れた、自然豊かな山地の森林です。</p>
B : 81~120 点	<p>Cまでの鳥に加え、ホトトギスやヤマガラ、エナガのようなまとまった森林に生息する鳥が見られるようでしたら、そこは丘陵や谷津田のある里山的な環境と言えるでしょう。</p> <p>もし、サンバなどが見られれば、そこは典型的な里山です。里山は、昔から人によって利用・管理されてきた場所ですが、今では自然豊かな環境として注目されています。</p>
C : 41~80 点	<p>Dまでの鳥に加え、ヒバリのように草地に生息する鳥、セグロセキレイのように水辺を利用する鳥、ホオジロやモズのように林を利用する鳥が見られるようでしたら、そこは市街地から離れた広がりのある田園的な環境と言えるでしょう。</p> <p>田園地帯は人によって作られた空間ですが、生物の生息に適した環境が比較的残っています。</p>
D : 21~40 点	<p>Eの鳥に加え、シジュウカラやメジロ、ヒヨドリなど、ある程度まとまった木々があれば生息できる鳥が見られるようでしたら、そこは市街地の中でも比較的緑のある環境と言えるでしょう。</p> <p>このような緑地の多くは公園として利用されていますが、同時にそこは市街地に棲む生息空間となる重要な場所です。</p>
E : 1~20 点	<p>カラスやドバトのように様々な環境への順応力の高い鳥や、スズメのように人の生活に依存するような鳥しか見られないようでしたら、そこは市街地の中でも都市化の進んだ環境と言えるでしょう。</p> <p>多様な生物の棲む環境としては適していません。</p>

#### 4・ 調査結果 前期（4月～9月）：環境度の評価対象期間

令和4年度前期に一羽でも野鳥の発見報告があった地区は、65地区中50地区でした。「環境ものさし」において点数化されている野鳥50種については、50種中37種の報告がありました。

報告された50種中37種の野鳥を点数化した結果、市全体での平均点は50点（前期に一度でも観察された野鳥を点数化し、報告のあった調査区数で割った平均点）となり、環境度はA～Eの5段階評価のうち松戸市としての平均はCの評価となりました。

地区毎に見てみますと、Aに属する121点以上となった地区は1地区、Bに属する81点以上120点以下となった地区は4地区、Cに属する41点以上80点以下となった地区は26地区でありました。

次の表-5に各地区の点数を示しております。

表-5 各地区の点数（4月～9月） （単位：点）

地区番号	1	2	3	4	5	6	7	
調査員数	6	6	2	6	4	6	6	
点数	63	55	26	62	55	44	63	
地区番号	8	9	10	11	12	13	14	
調査員数	1	2	4	2	3	0	0	
点数	40	15	84	41	48	-	-	
地区番号	15	16	17	18	19	20	21	
調査員数	6	2	2	2	2	1	0	
点数	60	31	38	23	41	18	-	
地区番号	22	23	24	25	26	27	28	
調査員数	4	0	3	2	4	2	2	
点数	70	-	33	49	69	29	46	
地区番号	29	30	31	32	33	34	35	
調査員数	4	0	6	8	0	0	2	
点数	30	-	78	155	-	-	32	
地区番号	36	37	38	39	40	41	42	
調査員数	4	2	2	2	4	2	0	
点数	30	40	19	35	57	43	-	
地区番号	43	44	45	46	47	48	49	
調査員数	5	1	0	2	4	2	0	
点数	49	24	-	25	87	48	-	
地区番号	50	51	52	53	54	55	56	
調査員数	3	3	2	2	4	2	2	
点数	86	75	39	77	45	32	56	
地区番号	57	58	59	60	61	62	63	
調査員数	0	6	2	0	2	0	2	
点数	-	92	63	-	71	-	12	
地区番号	64	65	合計 2,503 点 ÷ 50 地区（報告のあった地区数） = 松戸市の平均 50 点 → 環境度：C					
調査員数	0	0						
点数	-	-						

※      は、環境度がA（121点以上）の地区になります。

※      は、環境度がB（81点以上）の地区になります。

次は、令和3年度と4年度の各地区の状況を図-3及び図-4にて示しています。

図-3 地区別点数（令和3年度）

47点／環境度：C

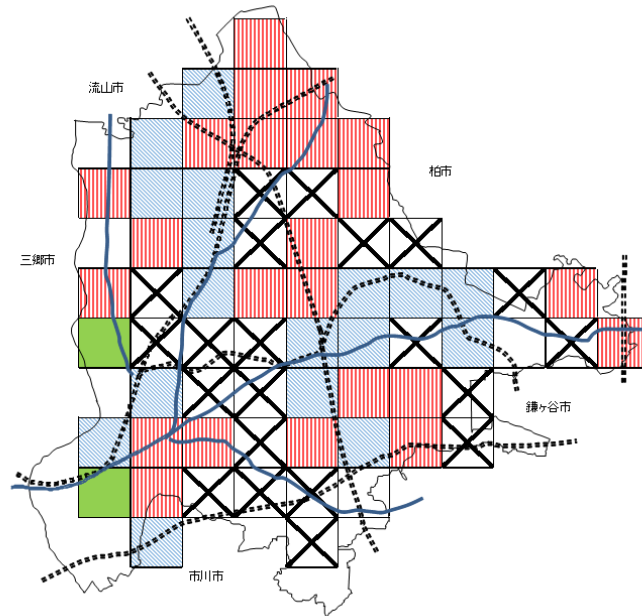
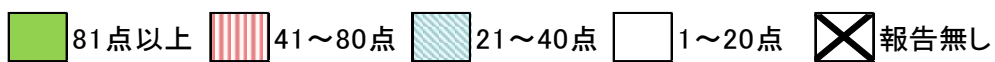
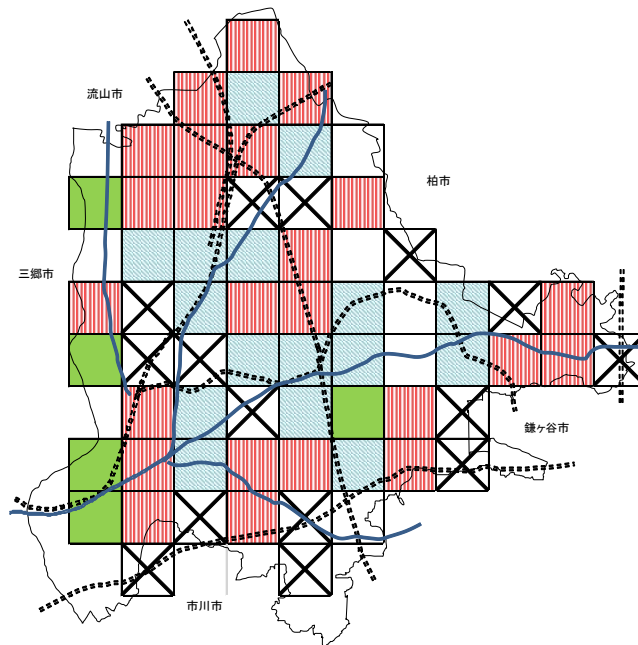


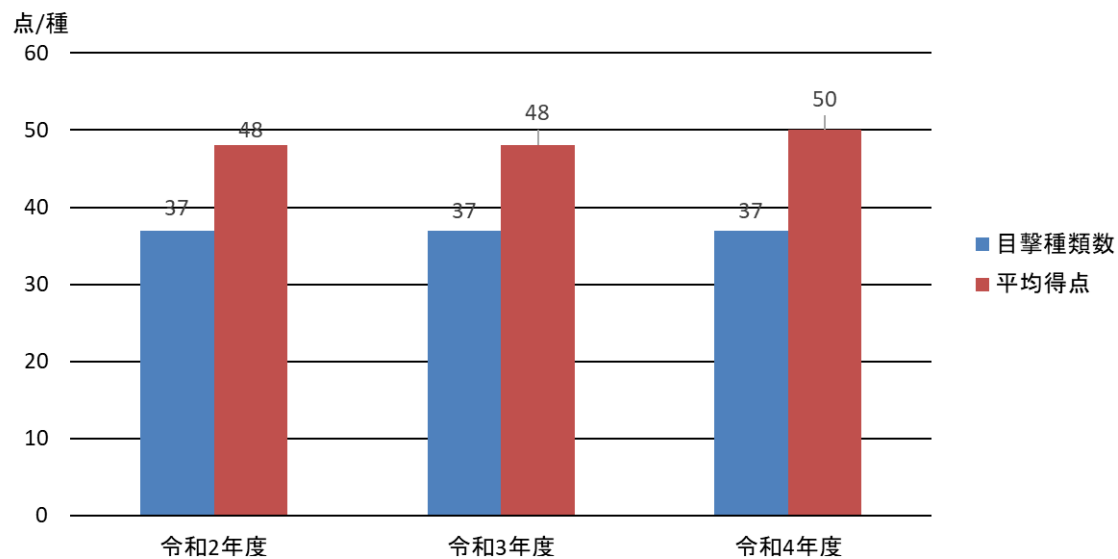
図-4 地区別点数（令和4年度）

50点／環境度：C



次は、経年の比較として3年分の日撃種類数及び平均点数を表-6にて示しています。








表-6 令和2年度～4年度（前期）における松戸市の点数等について















※目撃種類数は、得点化されている50種になります。

次は、野鳥別に目撃された地区を表-7のとおり示しています。



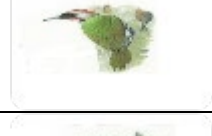





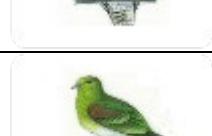

表-7 得点化されている野鳥の目撃された地区







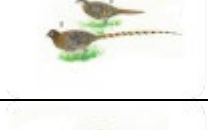




点数	写真	野鳥名	目撃された地区
1		ドバト	1・2・3・4・5・6・7・10・11・12・ 15・16・17・22・24・25・26・28・ 29・31・32・35・36・38・39・40・ 41・43・44・46・47・48・50・51・ 52・53・54・55・56・58・59・61
1		ハシブトカラス	1・2・4・5・6・7・8・10・11・12・ 15・16・17・18・19・20・22・24・ 25・26・27・28・29・31・32・35・ 36・37・38・39・40・41・43・44・ 47・48・50・51・52・53・54・55・ 56・58・59・61
2		スズメ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・17・18・20・22・ 24・25・26・27・28・29・31・32・ 35・36・37・38・39・40・41・43・ 44・46・47・48・50・51・52・53・ 54・55・56・58・59・61
2		ハクセキレイ	1・2・4・5・6・7・8・10・11・12・ 15・16・18・19・22・24・25・26・ 27・28・29・31・32・35・36・37・ 38・39・40・41・43・44・46・47・ 48・50・51・52・53・54・55・56・ 58・59・61
2		ハシボソカラス	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・17・18・19・20・ 22・24・25・26・27・28・31・32・ 35・37・38・39・40・41・43・44・ 47・48・50・51・52・53・54・55・ 56・58・59・61
3		カワラヒワ	1・2・5・6・7・8・10・11・12・15・ 16・17・22・28・31・32・37・39・ 40・43・44・47・48・50・51・52・ 53・54・58・59・61
3		キジバト	1・2・3・4・5・6・7・8・10・11・ 12・15・16・17・18・19・22・25・ 26・27・28・29・31・32・35・36・ 37・39・40・41・43・46・47・48・ 50・51・52・53・54・56・58・59・ 61

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
3		コシアカツバメ	32
3		ツバメ	1・2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・15・16・17・19・22・24・25・26・28・29・31・32・35・36・37・38・39・40・41・43・46・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61
3		シジュウカラ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・18・19・20・22・25・26・27・28・29・31・32・35・36・37・39・40・41・43・44・46・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61・63
3		ヒヨドリ	1・2・4・5・6・7・8・10・11・12・15・16・17・18・19・20・22・24・25・26・27・28・29・31・32・35・36・37・39・40・41・43・44・46・47・48・50・51・52・53・54・56・58・59・61
3		ムクドリ	1・2・3・4・5・6・7・8・10・11・12・15・16・17・18・19・20・22・24・26・27・28・29・31・32・35・36・37・38・39・40・41・43・44・46・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61
4		キジ	1・10・12・22・32・50・54・58
4		コゲラ	1・2・6・7・10・12・15・18・22・25・26・28・31・32・40・43・47・48・50・51・52・53・55・56・58・59・61
4		メジロ	1・2・3・4・5・6・7・8・15・20・24・25・26・28・29・31・32・35・36・37・39・40・41・43・44・47・48・50・51・52・53・56・58・59・61・63

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
4		セグロセキレイ	1・4・12・17・27・32・48・53・56・61
5		ウグイス	1・3・4・5・7・8・9・10・15・19・25・26・27・29・31・32・36・39・42・43・47・48・51・54・55・56・58・59・63
5		ホオジロ	1・10・22・26・31・32・43・50・53・58
5		オオヨシキリ	5・10・11・22・31・32・50・53・58・61
5		セッカ	5・10・22・32・50・58
5		カッコウ	32
5		モズ	1・4・5・7・10・11・16・17・19・22・25・26・31・32・40・41・47・48・50・51・53・54・56・58・59・61
5		カワセミ	1・2・4・6・10・12・17・19・22・26・31・32・43・46・50・51・52・53・54・58・61
5		キセキレイ	4・32
5		ヒバリ	1・2・4・5・10・11・12・22・25・32・37・38・40・48・50・53・56・58
6		イカル	



点数	写真	野鳥名	目撃された地区
6		エナガ	2・7・8・10・15・19・22・25・ 26・28・31・32・37・47・50・51・ 56・58・59・61
6		ヤマガラ	7・24・26・27・28・31・32・41・ 47・51・55・58・59
6		ホトトギス	4・24・26・32
7		アオゲラ	
7		アカゲラ	
7		オオアカゲラ	
7		オオタカ	15・32・47・50・58
7		キビタキ	7・31・32・47・51・53・61
7		センダイムシクイ	51・53・59
8		アオバズク	
8		アオバト	
8		ツツドリ	15・32・47
8		オオルリ	32

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
8		ミソサザイ	
8		クロツグミ	
8		コガラ	8・40
8		ゴジュウカラ	
8		サンコウチョウ	32
8		サンショウクイ	
8		ヤマドリ	
9		アカショウビン	
9		サシバ	10・32
9		フクロウ	47
10		クマタカ	

## 5・ 調査結果 年間（令和4年度）

令和4年度中に一度でも野鳥の発見報告があった地区は、65地区中50地区でした。観察報告のあった目撃種類数は、年間で119種類でした。

地区毎に見てみますと、61種類以上の地区は2地区あり、41種類以上60種類以下の地区は11地区でした。

次は、表-8に各地区の野鳥目撃種類数を示しております。

表-8 各地区の目撃種類数（年間）

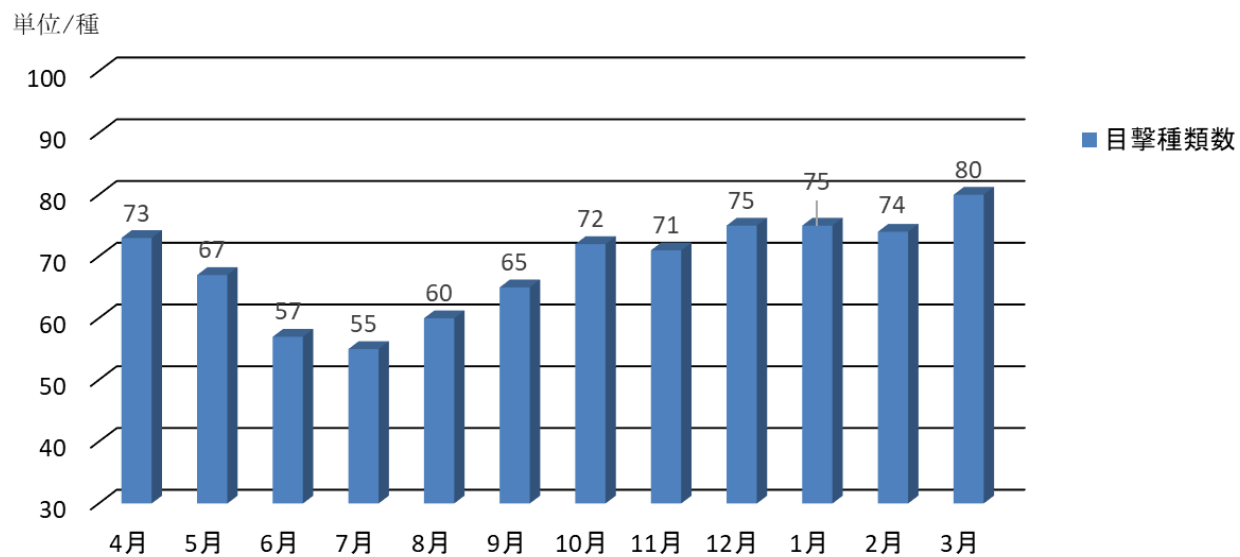
（単位：種）

地区番号	1	2	3	4	5	6	7
調査員数	6	6	2	6	4	6	6
種類数	35	45	11	41	49	31	36
地区番号	8	9	10	11	12	13	14
調査員数	1	2	4	2	3	0	0
種類数	12	12	57	29	25	-	-
地区番号	15	16	17	18	19	20	21
調査員数	6	2	2	2	2	1	0
種類数	25	27	22	16	42	7	-
地区番号	22	23	24	25	26	27	28
調査員数	4	0	3	2	4	2	2
種類数	53	-	18	19	43	19	23
地区番号	29	30	31	32	33	34	35
調査員数	4	0	6	8	0	0	2
種類数	15	-	39	104	-	-	17
地区番号	36	37	38	39	40	41	42
調査員数	4	2	2	2	4	2	0
種類数	18	17	8	16	23	19	-
地区番号	43	44	45	46	47	48	49
調査員数	5	1	0	2	4	2	0
種類数	28	11	-	26	37	26	-
地区番号	50	51	52	53	54	55	56
調査員数	3	3	2	2	4	2	2
種類数	42	29	25	53	43	17	28
地区番号	57	58	59	60	61	62	63
調査員数	0	6	2	0	2	0	2
種類数	-	64	27	-	49	-	6
地区番号	64	65					
調査員数	0	0					
種類数	-	-					

※  は、目撃種類数が61種類以上の地区になります。

次の表-9 では令和4年度における月別に目撃された種類数を示しています。

表-9 令和4年度における月毎の野鳥の目撃種類数



次は、令和3年度と令和4年度の各地区で目撃された種類数の状況を図-5及び図-6にて示しています。

図-5 地区別目撃種類数（令和3年度）  
125種類／年間

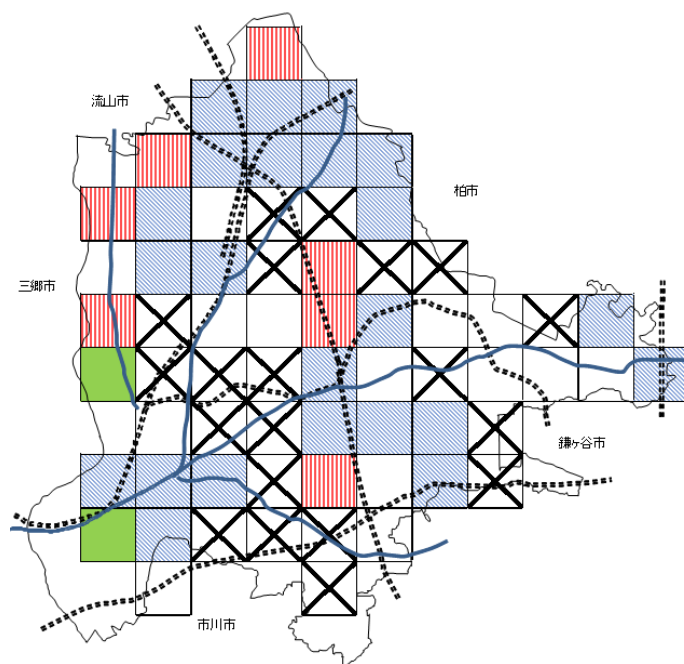
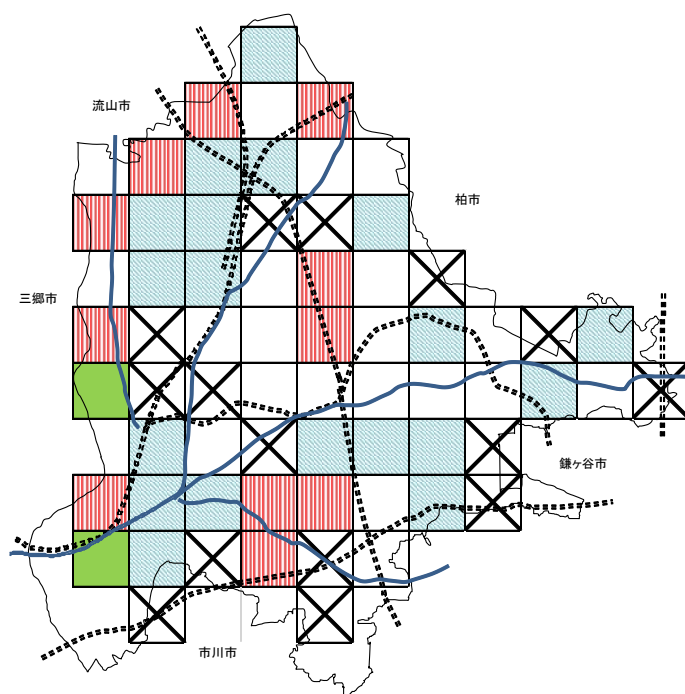


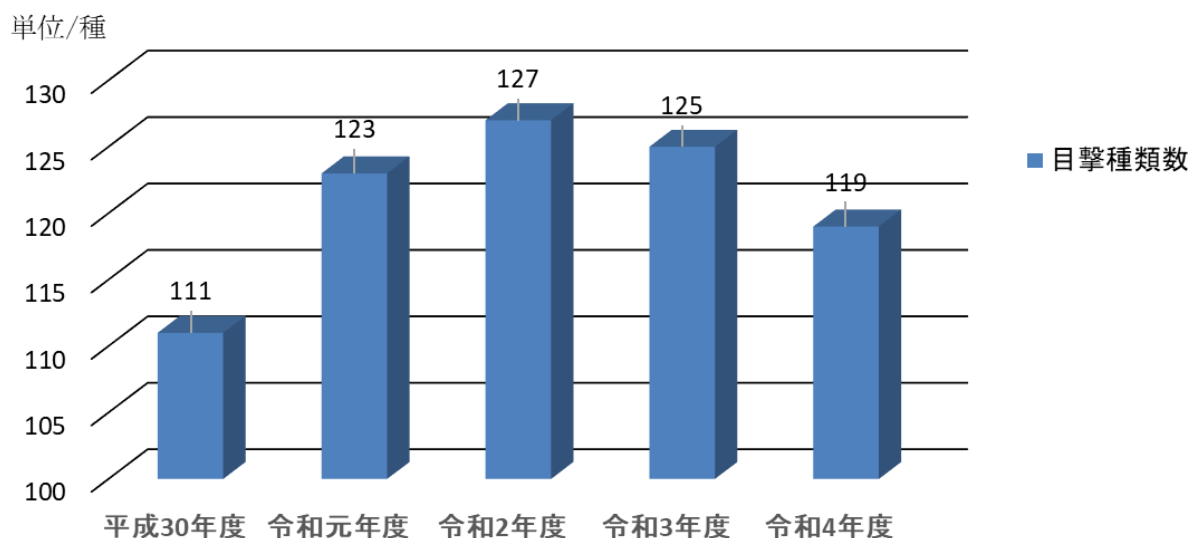
図-6 地区別目撃種類数（令和4年度）  
119種類／年間



61種以上
  41～60種
  21～40種
  1～20種
  報告無し

次は、経年の比較として5年分の目撃された種類数を表-10にて示しています。

表-10 平成30年度～令和4年度における目撃種類数



目撃された野鳥の種類数を比べてみると、昨年より多少、種類数が減少しています。年度によって調査員の経験や調査回数、調査員の配置された人数などに影響されると考えられます。

なお、観察された場所を見てみると河川などの水面・田畑・樹林地や街路樹、植林等の樹木が多いところなどで多くの野鳥が観察される結果となっています。

次の表－11 では、令和4年度に野鳥毎に目撃された地区を示しています。

表－11 令和4年度において野鳥の目撃された地区（年間）

◇以下得点の対象となっている野鳥（五十音順）

種類	地区数	目撃された地区
アオバズク	1	4
イカル	2	26・32
ウグイス	37	1・2・3・4・5・6・7・9・10・15・18・19・22・25・26・27・29・31・32・35・36・37・39・40・41・43・47・50・51・53・54・56・58・59・61・63
エナガ	29	2・5・6・7・8・10・15・19・22・25・26・28・31・32・35・37・40・41・47・50・51・52・53・55・56・58・59・61・63
オオタカ	13	5・15・19・31・32・40・47・48・50・51・54・58・61
オオヨシキリ	10	5・10・11・22・31・32・50・53・58・61
オオルリ	1	32
カッコウ	1	32
カワセミ	25	1・2・4・6・7・10・11・12・16・17・19・22・26・31・32・43・46・50・51・52・53・54・56・58・61
カワラヒワ	35	1・2・4・5・6・7・8・10・11・12・15・16・17・19・22・27・28・31・32・37・39・40・43・44・47・48・50・51・52・53・54・56・58・59・61
キジ	9	1・10・12・22・32・46・50・54・58
キジバト	45	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・18・19・22・24・25・26・27・28・29・31・32・35・36・37・39・40・41・43・46・47・48・50・51・52・53・54・56・58・59・61
キセキレイ	6	4・27・31・32・56・61
キビタキ	7	7・31・32・47・51・53・61
コガラ	3	8・24・40
コゲラ	33	1・2・5・6・7・10・12・15・18・19・22・25・26・27・28・31・32・36・39・40・43・47・48・50・51・52・53・55・56・58・59・61・63
コシアカツバメ	2	15・32
ゴジュウカラ	1	9

種類	地区数	目撃された地区
サシバ	2	10・32
サンコウチョウ	1	32
シジュウカラ	48	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・18・19・20・22・25・26・27・28・29・31・32・35・36・37・39・40・41・43・44・46・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61・63
スズメ	49	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・18・19・20・22・24・25・26・27・28・29・31・32・35・36・37・38・39・40・41・43・44・46・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61
セグロセキレイ	19	1・2・4・12・17・19・22・24・26・27・32・35・47・48・53・54・56・58・61
セッカ	6	5・10・22・32・50・58
センダイムシクイ	3	51・53・59
ツツドリ	3	15・32・47
ツバメ	44	1・2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・15・16・17・19・22・24・25・26・28・29・31・32・35・36・37・38・39・40・41・43・46・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61
ドバト	44	1・2・3・4・5・6・7・9・10・11・12・15・16・17・18・22・24・25・26・28・29・31・32・35・36・38・39・40・41・43・44・46・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61
ハクセキレイ	45	1・2・4・5・6・7・8・10・11・12・15・16・18・19・22・24・25・26・27・28・29・31・32・35・36・37・38・39・40・41・43・44・46・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61
ハシブトガラス	47	1・2・4・5・6・7・8・10・11・12・15・16・17・18・19・20・22・24・25・26・27・28・29・31・32・35・36・37・38・39・40・41・43・44・46・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61
ハシボソガラス	46	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・18・19・20・22・24・25・26・27・28・31・32・35・37・38・39・40・41・43・44・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61



種類	地区数	目撃された地区
ヒバリ	18	1・2・4・5・10・11・12・22・25・32・37・38・40・48・50・53・56・58
ヒヨドリ	49	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・18・19・20・22・24・25・26・27・28・29・31・32・35・36・37・39・40・41・43・44・46・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61・63
フクロウ	1	47
ホオジロ	14	1・10・19・22・26・31・32・35・41・43・48・50・53・58
ホトトギス	5	3・4・24・26・32
ムクドリ	48	1・2・3・4・5・6・7・8・10・11・12・15・16・17・18・19・20・22・24・25・26・27・28・29・31・32・35・36・37・38・39・40・41・43・44・46・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61
メジロ	44	1・2・3・4・5・6・7・8・10・15・16・17・18・19・20・22・24・25・26・27・28・29・31・32・35・36・37・39・40・41・43・44・47・48・50・51・52・53・54・56・58・59・61・63
モズ	35	1・2・4・5・6・7・10・11・15・16・17・19・22・25・26・27・28・29・31・32・36・40・41・47・48・50・51・52・53・54・55・56・58・59・61
ヤマガラ	21	7・9・18・19・24・26・27・28・29・31・32・40・41・47・48・51・53・55・58・59・61

◇以下得点の対象となっていない野鳥（五十音順）

種 類	地区数	目撃された地区
アオサギ	27	1・2・4・5・6・7・9・10・11・12・15・16・17・19・22・25・26・31・32・43・47・50・53・54・56・58・61
アオジ	19	4・7・10・19・22・26・31・32・46・47・48・51・53・54・55・56・58・59・61
アカハラ	10	5・10・22・31・32・47・51・58・89・61
アトリ	4	2・5・28・32
アマサギ	1	32
アリスイ	3	10・32・43
イソシギ	7	1・2・4・5・10・32・58
イワツバメ	5	2・5・22・32・53
エゾビタキ	1	32
エゾムシクイ	1	32
オオジシギ	1	32
オオジュリン	5	10・22・32・53・58
オオハクチョウ	1	32
オオバン	21	1・2・4・5・6・7・10・11・12・16・17・19・22・24・26・32・43・50・53・54・58
オカヨシガモ	7	5・19・26・32・53・54・61
オシドリ	1	32
オナガ	42	1・2・4・5・6・7・9・10・11・12・15・16・17・18・22・24・25・26・28・29・31・32・35・36・37・39・40・41・43・44・46・47・48・50・51・52・53・54・56・58・59・61
オナガガモ	7	19・26・32・46・53・54・61
カイツブリ	15	1・2・4・5・7・10・16・19・22・26・32・50・53・58・61
カケス	4	26・27・32・58
カシラダカ	5	10・19・32・48・58
カモメ	1	5
カルガモ	29	1・2・4・5・6・7・10・11・12・16・17・19・22・24・26・27・31・32・37・43・46・50・51・52・53・54・56・58・61
カワウ	24	1・2・4・5・6・7・10・11・12・16・17・19・22・24・26・32・43・46・50・52・53・54・58・61
カンムリカイツブリ	7	2・5・10・22・32・50・58
キンクロハジロ	7	5・10・22・32・53・58・61

種 類	地区数	目撃された地区
クイナ	2	32・54
クサシギ	1	22
コアジサシ	3	10・11・32
ゴイサギ	9	2・4・6・16・17・31・32・53・61
コガモ	18	1・4・5・6・10・11・12・16・19・22・26・31・32・46・53・54・58・61
コサギ	23	1・4・5・6・7・10・11・12・16・17・19・22・26・31・32・35・43・46・50・53・54・58・61
コジュケイ	2	19・26
コチドリ	12	1・5・10・11・22・32・36・53・54・56・58・61
コムクドリ	7	32・47・48・50・53・59・61
ササゴイ	1	2
シメ	11	7・19・26・28・31・32・47・51・56・58・59
ジョウビタキ	33	1・2・4・5・6・7・10・15・16・17・18・19・26・28・29・31・32・36・37・40・41・43・46・47・50・51・52・53・54・55・58・59・61
シロハラ	17	7・10・19・26・27・28・31・32・47・48・51・52・54・55・58・59・61
セイタカシギ	2	22・32
セグロカモメ	4	10・22・32・58
ダイサギ	19	4・5・6・10・11・19・22・26・28・32・43・46・50・52・53・54・56・58・61
タゲリ	6	5・10・11・22・32・58
タシギ	8	4・16・31・32・46・54・58・61
タヒバリ	6	5・10・22・32・54・58
チュウサギ	5	2・4・31・32・58
チョウゲンボウ	14	2・4・5・7・10・11・15・22・31・32・48・54・58・61
ツグミ	34	1・2・4・5・7・10・11・15・16・18・19・22・25・26・28・31・32・36・39・40・41・43・46・47・48・50・51・52・53・54・56・58・59・61
ツミ	6	2・6・7・19・32・47
トビ	9	5・10・15・22・32・47・50・52・58
トモエガモ	1	32
ニューナイスズメ	1	32
ノスリ	6	10・19・22・32・50・58
ノビタキ	2	32・36
ハイタカ	5	32・50・52・59・61

種 類	地区数	目撃された地区
ハシビロガモ	8	2・5・32・46・50・53・54・61
ハヤブサ	5	32・43・50・53・58
バン	10	1・2・4・7・12・32・53・54・58・61
ヒドリガモ	16	1・2・4・5・6・7・10・16・32・43・46・50・53・54・58・61
ビンズイ	2	32・47
ベニマシコ	4	10・19・32・47
ホシハジロ	10	2・5・10・19・22・26・32・46・53・58
マガモ	13	2・4・10・19・22・26・31・32・46・53・54・58・61
ミコアイサ	1	26
ミサゴ	2	10・32
ムナグロ	5	5・11・22・32・58
ユリカモメ	5	2・22・26・32・58
ヨシガモ	4	1・4・32・53
ルリビタキ	2	32・53
イソヒヨドリ	9	2・5・6・7・12・22・32・50・58
クロジ	1	32
コサメビタキ	1	32
トラツグミ	2	47・58
ウソ	1	47
ショウドウツバメ	1	32
シロチドリ	1	54
アメリカヒドリ	4	2・6・53・54
マヒワ	1	2
ホオアカ	2	10・32

## 参考資料

### ○令和4年度における活動の実績

#### 松戸市地域環境調査研修会

日 付 令和4年10月26日(水)

場 所 松戸市民会館 301 会議室

内 容 令和3年度報告会及び講演会「野鳥観察のためのポイント」

講 師 公益財団法人 山科鳥類研究所 平岡 考 氏

参加者 25 名

#### 第1回松戸市地域環境調査観察会

日 付 令和4年11月29日(火)

場 所 江戸川河川敷

内 容 野鳥観察

参加者 18 名



#### 第2回松戸市地域環境調査観察会 ※雨天により中止

日 付 令和4年11月29日(火)

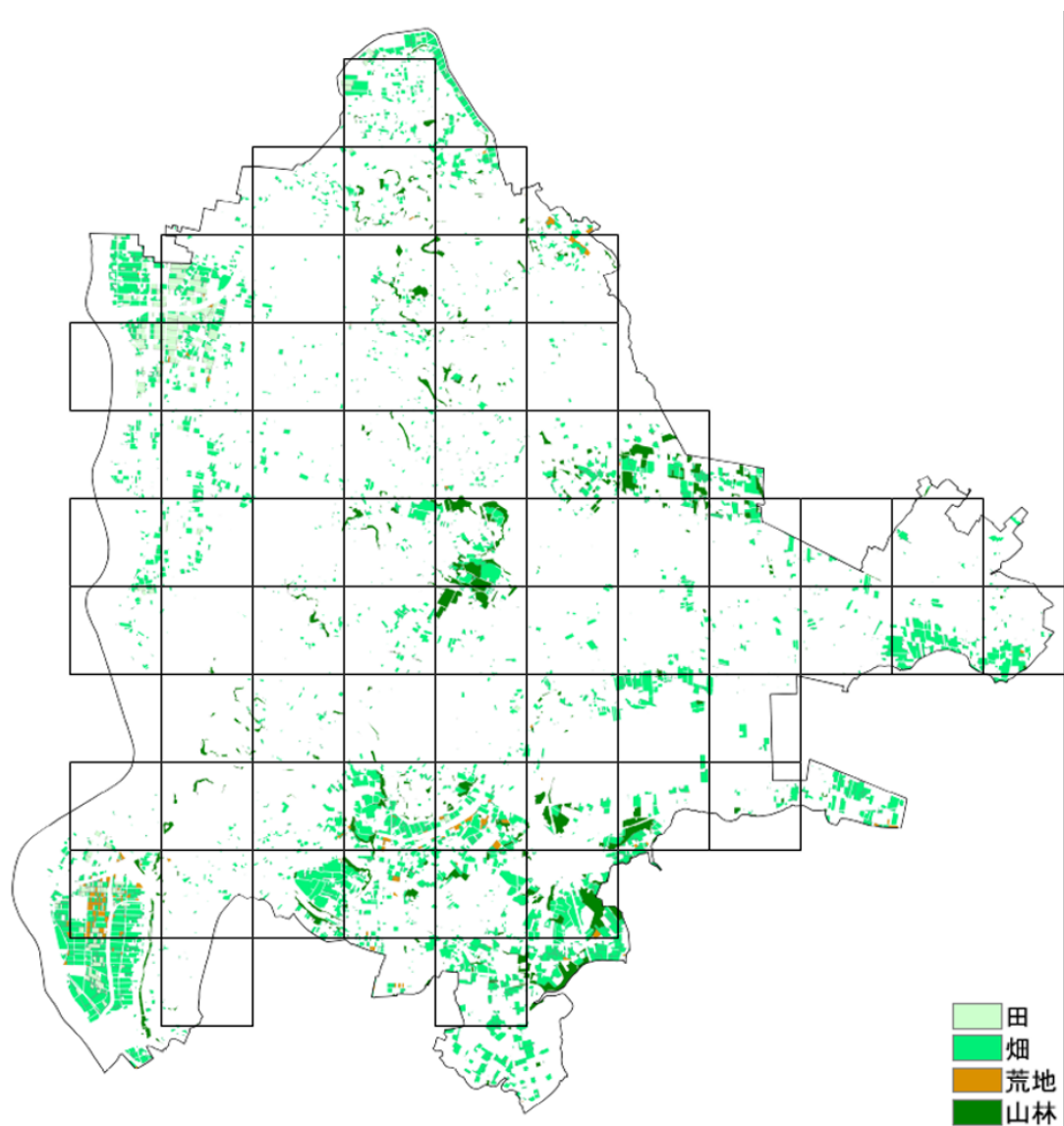
場 所 21世紀の森と広場

内 容 野鳥観察

## ○土地利用状況

土地利用状況調査は、平成 17 年度から平成 21 年度にかけて、調査員自身に野鳥観察とは違った目線で、地域の環境を知ってもらえるのではないかという目的から実施していましたが、平成 23 年度からは都市計画基礎調査より土地利用現況を掲載しています。

図-8 土地利用状況



## ○特定外来生物

平成 27 年度から地域環境調査などでの活動において、特定外来生物やその他の生きものを目撃した際には、調査員の方に報告をお願いしているところです。

「**特定外来生物**」・・・外来生物（海外が起源のもの）のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から環境省において指定されたものをいいます。

特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます。また、原則として飼育・栽培・保管・運搬することが禁止されています。

目撃した場合には、写真を撮影の上、環境政策課に連絡いただくか、松戸市ホームページに専用のフォームがありますので、必要事項を入力の上、投稿してください。

専用フォーム

【松戸市 TOP⇒くらし⇒環境⇒自然環境⇒外来生物⇒特定外来生物の目撃情報投稿フォーム】

アドレス：

[http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyoku/shizenkankyo/mokugeki\\_jyohou.html](http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyoku/shizenkankyo/mokugeki_jyohou.html)

(1) 市内で確認されている特定外来生物（一部抜粋）

・アライグマ



ペットとして飼われていたものが野生化した結果、生態系や農作物などに深刻な被害を与えています。見かけによらずどう猛な性格をしています。

大きさ	体長 40～60 cm、尾が 20～40 cm 全体で 60 cm～1m位になります。
特徴	尾のしま模様が最大の特徴です。模様がなければ違う生きものです。

・カミツキガメ



大型に成長し、様々な生物を捕食します。また、噛む力が強く、人間の身体への被害も想定されます。

大きさ	背甲長 50 cm 体重は約 30 kgにも達する。
特徴	鋭い口と爪、甲羅に 3 本の隆条（キール）、尾は 1～3 列の鱗状



・オオキンケイギク



5月～7月頃にかけて咲き、道端や河原などに生息します。強靱なため一度定着すると他の在来植物などの生育場所を奪ってしまいます。

大きさ	草丈は 30～70 cm程度
特 徴	黄橙色の花びら、花びらの先端がギザギザ

・アレチウリ



一年生のつる植物で、開花期は8月～10月になります。全国の河川等で繁茂し、他の植物がほとんど生育しないなどの恐れがあります。

大きさ	長さは、数メートルから十数メートルに及ぶ
特 徴	葉がハート形の手のひらサイズ、ツルからは3～4本の巻きひげ

(2) 千葉県内で確認されている特定外来生物

今のところ市内で確認はされておりませんが、近隣市では確認されたものもいます。定着等を防ぐためにも調査の傍ら、目撃した場合には、情報提供をお願いいたします。

千葉県内で確認記録のある特定外来生物一覧 (令和4年3月31日 現在43種)						
哺乳類	1	アカゲザル	昆虫類	25	アカボシゴマダラ ★	
	2	アカゲザル交雑種		26	セイヨウオオマルハナバチ	
	3	マスカラット		27	アカカミアリ	
	4	アライグマ ★		28	ヒアリ	
	5	キョン	甲殻類	29	ウチダザリガニ	
鳥類	6	カナダガン	クモ類	30	セアカゴケグモ ★	
	7	ガビチョウ	軟体動物	31	カワヒバリガイ	
	8	カオグログビチョウ		32	オオキンケイギク ★	
	9	カオジログビチョウ		33	ミズヒマワリ	
10	ソウシチョウ	34		オオハンゴンソウ		
爬虫類	11	カミツキガメ ★		植物	35	ナルトサワギク
	12	ハナガメ			36	オオカワヂシャ
	13	ハナガメとニホンイシガメの交雑種			37	ナガエツルノゲイトウ ★
	14	ハナガメとクサガメの交雑種			38	アレチウリ ★
両生類	15	ウシガエル ★			39	オオフサモ ★
魚類	16	オオタナゴ			40	オオバナミズキンバイ
	17	コウライギギ	41		ボタンウキクサ	
	18	チャンネルキャットフィッシュ	42		アメリカオオアカウキクサ	
	19	カダヤシ ★	43		ナガエモウセンゴケ	
	20	ブルーギル ★				
	21	コクチバス		★市内で確認しているもの		
	22	オオクチバス ★				
	23	ストライプトバス				
	24	ショートノーズガー				

※「令和4年度千葉県環境白書」から抜粋

(3) 近年話題になった特定外来生物

松戸市内では確認されていませんが、近隣市や近隣の県等で確認されています。

- ・ヒアリ（千葉県内確認あり）



南米中部原産で、日本には港湾などのコンテナに紛れるなどして見つかっています。攻撃性が強く、巣などに刺激を与えると集団で襲いかかります。

大きさ	2・5mm～6mm程度 体の色は全体的に赤茶色
特徴	背中に2つのこぶ。
備考	在来のアリの中にも体が赤茶色のアリはいます。赤茶色だからといって必ずしもヒアリとは限りません。

- ・セアカゴケグモ（千葉県内確認あり）



地面や人工物の裏など日当たりの良い暖かい場所に営巣します。攻撃性はありますが、むやみに近づくと噛まれる恐れがあります。

大きさ	メスは大きさが1cm程度、脚を広げると約3cm。オスはその半分
特徴	メス：背中に縦に赤い斑紋有り。 オス：斑紋無し。

○その他の生きもの

地域環境調査では、先に挙げた特定外来生物の他、調査員の方が興味を持った生きものなどについても報告をいただいているところです。

調査の傍ら、気づいた生きものや珍しい生きものがいましたらご報告いただいています。

<トンボの目撃情報>

19 地区	コシアキトンボ・オニヤンマ・アカトンボ・チョウトンボ・ギンヤンマ
26 地区	シオカラトンボ・ギンヤンマ・コシアキトンボ・ショウジョウトンボ・アカトンボ・チョウトンボ
27 地区	シオカラトンボ・チョウトンボ・オニヤンマ・アカトンボ・ハグロトンボ
39 地区	シオカラトンボ・ムギワラトンボ・アカトンボ
47 地区	チョウトンボ

<蝶の目撃情報>

19 地区	モンキチョウ・モンシロチョウ・ナミアゲハ・クロアゲハ・スジアゲハ
25 地区	ツマグロヒョウモン
6 地区	モンシロチョウ・モンキチョウ・ナミアゲハ・クロアゲハ・アオスジアゲハ・シジミチョウ・キアゲハ
27 地区	モンキチョウ・モンシロチョウ・ナミアゲハ・シジミチョウ
32 地区	アツマキチョウ
47 地区	モンキチョウ・シジミチョウ・モンシロチョウ

<その他生きもの目撃情報>

2 地区	ミシシippアカミミガメ
7 地区	ミンミンゼミ・ヒグラシ
19 地区	ミシシippアカミミガメ・ミンミンゼミ・ヒグラシ・アブラゼミ・ヒシバツタ・コオロギ・アオマツムシ・コバネイナゴ・タヌキ

26 地区	タヌキ・ミシシッピアカミミガメ・アメリカザリガニ・ウシガエル・シマヘビ・カナヘビ・カナブン・カブトムシ・ニイニイゼミ・ミンミンゼミ・ヒグラシ・アブラゼミ・ツクツクボウシ・ショウリョウバッタ・コバネイナゴ・コオロギ・ツユムシ・カマキリ・アオツユムシ・オンブバッタ・トノサマバッタ・アオマツムシ・ツユムシ・カマキリ・アオマツムシ・ヤブキリ・
27 地区	ニイニイゼミ・ミンミンゼミ・ヒグラシ・アブラゼミ・ツクツクボウシ・ヒシバッタ・コオロギ・ツユムシ・アオマツムシ・ヤブキリ・ナナフシ
32 地区	アオダイショウ・イタチ・コウモリ・ウサギ・キツネ・タヌキ
38 地区	ハクビシン
39 地区	ヘビ・タヌキ・ミンミンゼミ・アブラゼミ
40 地区	コウモリ
47 地区	ニイニイゼミ・ミンミンゼミ・ツクツクボウシ・アブラゼミ・ヒグラシ・カマキリ・コオロギ・ツユムシ・カナヘビ
58 地区	クツワムシ

○コラム

このページでは、調査員の方から報告のあった野鳥の写真を紹介します。



ミサゴ

撮影者：村松調査員

カワセミ

撮影者：小松調査員



ツバメのヒナ

撮影者：仲間調査員





コゲラ

撮影者：岸岡調査員

カッコウ

撮影者：吉田調査員



コミミズク

撮影者：村松調査員





チョウゲンボウ

撮影者：伊東調査員

イソヒヨドリ

撮影者：前島調査員



ウグイス

撮影者：平調査員







ヒレンジャク

撮影者：村松査員

シジュウカラ

撮影者：平岡調査員



キジの親子

撮影者：菊地査員



## ○地域環境調査員からの短信（一部抜粋）

地域環境調査では年2回（半年に1回）、調査員が事務局へ調査票を提出していただきます。その中で調査員から市へ短信が寄せられることがあり、身近な環境の変化や出来事を報告していただいています。ここでは、それらの一部をご紹介します。

### 令和4年度調査員短信（前期）

地区	
6	・坂川での観察が少なかったせい、カモ類が少なかった。ツバメは市街でもマンションの歓呼吸口や屋内駐車場の天井など営巣して、3羽位のヒナをかえしていました。・アンダーパスの歩道設置工事が行われ、連日大きな音が発生することもあり、イソヒヨドリは観察されるものの、その繁殖は確認できなかった。
7	・第7区では域内と隣接区域で住宅建設～斜面林の樹木皆伐・用地造成～等が数年間継続しており、「自然環境が低下～悪化」が見られる。鳥たちの寄り付かなくなっている場所も見受けられる。また、新坂川の異常なゴミの堆積～中州状に水草が集積した場所に浮遊ゴミが蓄積していくのも見られる。大谷口新橋上流部には投げ込まれたと思われる大きな廃棄物もあり、サギ類等水鳥の寄り付かない状況が見られる。例年、カワセミのカップルが求愛給餌するのを見られたのに、昨年来カワセミは全く見られない厳しい状況にある。
10	・江戸川堤防でセッカやヒバリが営巣しているなか、除草作業が入るため、一時的に観察数が激減する。
11	・昨年から5月にアマサギが来るようになりましたが、鳥の種類は減少しています。調査日数の関係もあって、渡り鳥の確認はできませんでした。
22	・32地区と隣合せの場所だが、スポーツグラウンド拡張の為、立っていた植生の木々を切り倒し、平気でゲートボールを楽しんでいる。住み着いているイタチ、タヌキが終わり、それと共に野鳥も見ることが少なくなった。
31	・クリーンセンター横の貯水池によく見られるカワセミについて、繁殖期にうちの菜園内貯水溝に営巣して繁殖活動を行いました。去年度3月上旬の1回目は寒さの為と思われる抱卵放棄により巣立ちまでいけませんでした。今年度の6月に6羽、8月に7羽が無事に巣立ちました。親鳥による繁殖期の雛用の餌はクリーンセンター横の貯水池、柏市内の上大津川、上大津支川で主に捕獲しているようです。うちの菜園内でのカワセミの営巣は(私が気づいてから)今年で3年目になり、来年以降も気に入って使ってくれればと思っています。
32	・4月に入ると年一回しか発生しない蝶「ツマキチョウ」が春の使者として姿を見せてくれた。今年は六月から猛暑が続く生態系への影響も大きかった。動植物はもとより、昆虫たちもこの暑さにはたまらず、例年目にする甲虫、セミ類も減少。野鳥の留鳥と言われている「キジ、ハト、カラス、スズメ、モズ」等も身を隠す場所を探し、大きな口を開けて呼吸をしている。残念なのは、外来危惧種のアレチウリ、オオブタクサだけが繁茂し、珍種と思われるこれも外来種であるが、3年前の台風の置土産「アカボシツリフネ」がやっと根付いたかに見えたが猛暑で全滅してしまった。今年もキツネを見た。

36	<p>・千駄堀駒形公園の北側の畑は宅地造成され、住宅が次々と建設中。ハクセキレイ、モズ、オナガ等、例年観察できた鳥を今回は一度も見していない。野良猫が居着いている。他の地域からエサをやりに来る。公園の近くの家でエサをやっている。</p>
38	<p>・カラスが早朝から鳴いています。繁殖期なのでしょう、威嚇してきます。牧野原地区の団地、公園はきれいに伐採されていて、住民の皆様にとっては快適な一方で、野鳥が住みにくい環境かと思えます。ほかの住宅地も同様です。ハトが増えている感じがします。公園等でパンをあげている人がいるので、集まってくるのでしょうか。台風後には野鳥が少ないと思いました。</p>
39	<p>・今年はミンミンゼミが多く、アブラゼミの声が少なく感じました。公園の松の木に、ハシブトガラスが巣づくりし、3羽の子供が成長し巣立ちました。</p>
54	<p>・国分川沿いに資材置場（実質は廃棄物置場）が相当に増え、雑木林が無くなり、野鳥の数もすっかり減りました。この環境調査が、野鳥環境の向上に役立つことを期待しています。</p>
58	<p>・4月に荒地化された畑に珍しい「ケリ」が3羽現れた。ドバトが多いせいか、猛禽の「オオタカ、ハヤブサ、チョウゲンボウ」がこのハトを餌として毎日狙う姿が見られる。夜柳原水門の周りで「クツワムシ」が鳴いていた。最近では「幻の虫」とされているが、うれしい発見である。</p>

令和4年度調査員短信（後期）

地区	
1	<p>・三月末日、富士3号橋(富士川)あたりで久しぶりにカワセミを見ました。                      ・スズメの親子が、我が家の庭にやってきて、親スズメがしきりに子スズメの口にエサを与えている珍しい光景を見ました。その間子スズメは自分で何もせず、ただ羽をふるわせながら待っている、甘えて微笑ましい親子のスズメの姿でした。・オオバンの姿を最近よく見かけるようになった。個体数や頻度とも例年より多く感じます。反対にヒドリガモの群れが昨年より少なくなったようです。</p>
2	<p>・小金高校敷地内(特に体育館裏手)にオナガが群れていたのに、11月以降見かけなくなりました。・小金高校隣地にマンション新築工事で大型重機が入りアゲハチョウ、カマキリなど昆虫が減りました。・横須賀小学校辺りの坂川で、エサやり禁止看板があるのにもかかわらず、連日エサやりをしている人々がいます。朝だけ、昼だけ、一人一人はレジ袋一杯位のパンくずかもしれませんが、合わせて相当量だと思います。遊歩道が整備されたのでスケートボード練習など、人も集まるようになりました。</p>
4	<p>・2022年度の冬は、多くの水鳥たちが富士川にきてくれました。鷹狩の人が鳥インフルエンザを恐れたせいででしょうか。</p>
6	<p>・鳥の数が少なくなったことはどこも同じようですが、1月末～2月、新坂川に小魚の姿が一時増えたのか？コサギが5～6羽集団で日向ぼっこをするように休む姿が見られた。また、なかなか会う機会がないが家人の話なども含めると、カワセミがよく飛んでいるようです。・とうかえで通りにムクドリが集まりフン害がひどくなりました。新松戸2丁目にもムクドリが集まるようになり、その後移動していきました。</p>
11	<p>・坂川にはオオバンやカルガモとカワウが定番です。横六間川は、冬場に水門を閉じているようなので、水質は非常に悪いです。</p>
22	<p>・松戸市街地では貴重な田園であったが、その田園も埋め立てられ住宅が建った。毎年、ムナグロ、タゲリがやって来ていたが、もうその姿はない。・六間川の周りに生えていた木が全部切り倒されて無くなった。水場で唯一の隠れ木だったのだが、市の要請により業者任せで配慮のない伐採が行われ、もう野鳥は近づけられなくなった。</p>
29	<p>・大きな木がきられているためか、来る鳥の種類が減っているような気がします。</p>
32	<p>・2,3月イタチを目撃 ・ふれあい松戸川にカヌーで入る人がいて、カモ等の水鳥の貴重な場所がなくなってしまう。赤塚樋門の所にあったゴムが無くなった時からです。関係先と調整していただけないでしょうか。・3月31日:千葉大の樹林の高い梢にツミ♀がとまっていた。以前、戸定歴史公園でツミが営巣したことがあると聞いたが、今後どうなるだろうか?・今年はカモメ(ユリカモメ)が少ない。川向うの水元公園には冬場は多いのに、やはりエサやりをする方が来やすいのか。・イタチが往来する姿は実に可愛い。必ずこちらを振り返る。実際は小鳥、小動物を襲う獰猛な動物なのだが頻繁に出てくる。・タヌキが減った。病気(疥癬)にかかり毛が抜けて更に交通事故で哀れな姿で死んでいた。・ふれあい松戸川の水の汚れがひどい。ろ過する装置が故障して2年になる。生態系に危険信号が出ている。</p>

36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宅地造成、建築等の工事も一段落、静けさも鳥も戻ってくる。・相変わらず野良猫多数、餌をやる人も多い。・毎年来てくれていたジョウビタキのつがいが、今年は来ませんでした。</li> </ul>
38	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月カラスが増えています。繁殖御</li> </ul>
40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3/30、家の前の路上でテンを見ました。全体が黄色く尾っぽの先が白く細長い体でした。まさかこんな市街地に現れるとは思いませんでしたが、家と家の間を通り抜けて行きました。また、オオタカのように見えてましたが、家の前の路上でヒヨドリを追っていました。暫くすると上空に現れホバリングで獲物を探しているようでした。</li> </ul>
43	<ul style="list-style-type: none"> <li>・角町から松戸神社、親水公園にかけての坂川は、泥等の沈殿物の堆積が進行して水質が悪化している。鯉、ボラ、アユ、ハグロトンボ等の生息数が減少して、自然環境が損なわれている。この原因は松戸神社と京葉銀行の間の坂川に、不審者が投入した岩石、敷石が多数積み重なっており、坂川の水が阻害されている現実にある。</li> </ul>
46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カワセミの止まり木の向かい側にガソリンスタンドができました。毎年、自然環境が減っていくのが残念です。</li> </ul>
54	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数年ぶりにカワセミのつがいを見ました。可愛いヒナが生まれると良いのですが。</li> </ul>
58	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今期はコミズク、トラツグミの調査を始めて以来、初めて見る鳥が来ていた。種類、数ともに少なくなりつつある中で初見が見られるのがうれしかった。猛禽類も今期は4種類と増えた。またイタチを2度も見かけた。休耕地が増えて平野が広がったのがげんいんかな。・農家の高齢化によって畑地が放棄されている。そのせいか野鳥にとっては天国で(ケリ、コミズク)等が見られバーダーには喜ばれている一方で開発の波も見逃せない。開発する場合は、自然の美も付きもの。近く物流基地が出来そうだが、乱暴な開発だけはしないで欲しい。ここは松戸市で2番目に野鳥の多い場所である。</li> </ul>

## おわりに

平成 11 年度から始まった「生きもの調査」は、平成 17 年度から「地域環境調査」と形を変えて、令和 4 年度も報告書としてまとめることができました。

ご協力をいただいた調査員の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

この調査は市民の皆さんによるボランティアで実施しており、調査員の知識や経験、また各調査地区における調査員の人数や、調査頻度、調査場所、時間帯、天候等によっても観察結果に差が生じると考えられます。

そのため、今回報告された結果において、一概に報告の少ない地域が必ずしも野鳥が少ないとは判断できず、前後の調査結果も踏まえて傾向を把握していく必要があると思われます。少なくとも今回報告のあった野鳥が存在する、若しくはそれ以上の野鳥が存在する可能性は否定できないと考えられます。

松戸市環境基本計画で掲げる「めざすまちの将来像」の創造は、調査員や環境ボランティアの方々にとどまらず、そこに住む市民一人ひとりが地域の環境について知り、関心を高め、自ら行動することから始まります。

この調査が多少なりとも足掛かりとなれば幸いです。

※調査結果は、後日、松戸市のホームページからもご覧いただけます。

市ホームページのトップページから【ホーム ⇒ くらし ⇒ 環境 ⇒ 松戸市地域環境調査 ⇒ 地域環境調査結果】と進んでください。

アドレス：

[https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyou/shizenkankyo/tiiki-tyouusa/chiikikankyou\\_kekka.html](https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyou/shizenkankyo/tiiki-tyouusa/chiikikankyou_kekka.html)



イタチ  
村松調査員撮影



チョウゲンボウ  
平調査員撮影



---

## 松戸市地域環境調査報告書

令和5年10月

---

○発行 松戸市

〒271-8588

松戸市根本 387 番地の 5

TEL : 047-366-1111

URL : <http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

---

○編集 松戸市 環境部 環境政策課

TEL : 047-366-7089

FAX : 047-366-8114

---

イラスト提供 : 公益財団法人 日本鳥類保護連盟

令和5年10月30日発行

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針の判断の基準を満たす用紙を使用しています。

総合評価値 80

古紙パルプ配合率 : 100%

白色度 : 82%

